

落ち零れ

「成績を上げようと思ったら、落ち零れを如何になくするかでクラスの平均点は上がる。」

クラスの平均点（酪農各部門の平均点）を上げるときに（酪農経営を良くする時）、90点以上をいつも取る優秀な生徒を、常に100点を連続して取れるようにするのは難しい。優秀な生徒が常に100点を目指しているとすると、99点でもがっかりしなければいけない。成功した喜びを得る事は出来ずに、常に気落ちする状況が続く。精神的負担も大きくなる。

一方落ち零れと言われる生徒の点数を10点でも20点でも上げることは、ある意味では簡単である。今、30点しか取れなければ40点を目指せばよいのである。例え40点であっても点数が上がった喜びを享受できるようになり、その喜びがあればその先が見えてくる。次はもっとがんばろうと、勉強への意欲も沸くものである。

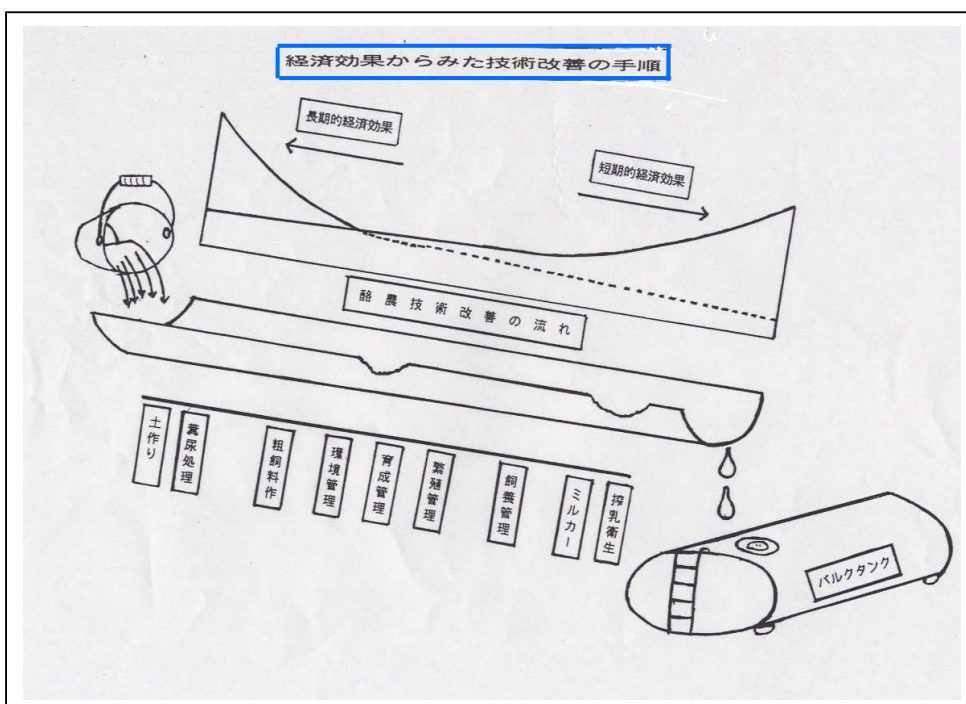
同じように、この考え方を酪農でも取り入れてみる。

酪農の各部門の成績を考えたときに、各部門の平均点ではなく、最低点を如何にして上げるかを考えます。勿論どの部分が最低点なのかを見極める事が難しいのであるが。

酪農家も落ち零れと同じ感覚で物事を考える。目標をクリアする事は大事であるが、その目標が高すぎてはいけない。昨日より今日が良くなる事、そして目標に近づく事。決して100点を目指してはいけない。しかし常に合格点を取れるように、各教科の勉強を満遍なく行う。

ある教科の専門家は、原因をいつも得意科目に求める傾向があるので、注意を要する。餌の専門家は、病気の原因を飼料設計に求めたがる。しかし、餌に問題があるよりは、やり方に問題がある事の方が、多い。

例 牛のピーク乳量を50kgから60kgにするのは難しい。しかし、分娩後調子が悪い牛のピーク乳量を少しでも上げることが、平均乳量を上げるコツである。分娩後乳量の伸びない牛を如何にして、あと10kg上げるかによって、平均乳量が大きく伸びる。



経済効果から見た技術改善の手順

欠けている部分の大きさが判らなければ、バルクに近い場所の技術から改善する。